

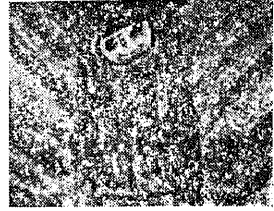
た べ も の に 関 した 話 を 創 る 子 供

谷 口 和 子

(2)



(1)



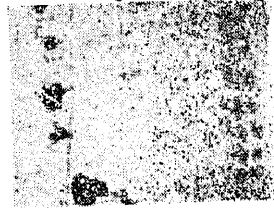
(3)



(5)



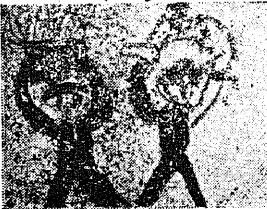
(4)



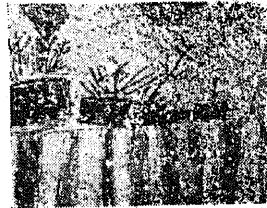
(6)



(8)



(7)



(A)

- 1 これから運動会の紙芝居をします。
- 今こしかけてまつているところなの
- 2 「やつとこ」のおゆうぎしてるの
- 3 それでね、鈴割りしてるの、低かつたから頭でわつているの、この子一人だけけがをしたの
- 4 柿ひろいしてるの
- 5 今とんがり帽子、これから始めるところなの
- 6 かけているとたん、一人ころんだから、あとから来た三人もころんだの
- 7 これ賞品
 - 一等はケーキ
 - 二等は魚がたくさんはいつているの
 - 三等は小ちやいケーキがたくさん
 - 四等はおかしがはいつているの
- 8 今賞品もらつてバンザイツて手をあげてるの

(B)

- これからおさるの自動車の紙芝居をします
- 今大阪をおさるの自動車走っているの
- 自動車からおりてうどんやでうどんを食べたの
- アメリカへ行きたくなつたの

それで急行で走つているの

- あとから汽車が来たから速力をゆるめたの
 - アメリカについたの
 - アメリカのうちにためてもらつたの
 - ハイヤーをみているの
 - 車庫に自動車を入れてもらつたの
 - 夜お母さんのことを思い出したの、おしるこつくつてくれたつけなあつて
- x x x
- これは満六才の男子の、十枚近くの絵からなる創作紙芝居の文句である。これ以外にもまだ数本つくつていて、Aでは賞品としてBではうどんや、おしるこ、等と食物に関する言葉が出て来ているが、残りの数本にも、この様なたべものに関する場面があらわれて来ているので、何か特別な原因があるかもしれないと考へて各生活部面でよく観察してみた。

身体的生活

- 体重 60.5kg (組の男子の平均は 59.5kg)
- 背は三十八人のグループの高い方
- 家でも幼稚園でも活力あり汗をかいてとびまわつてゐる。
- 情緒的生活
- 同情心、恐怖心、憐憫等の他人に対する情緒のめづえが出て来ている。

「かわいそうになつて涙が出ちや」という言葉をよく使う。

上野の山で浮浪児をみて「かわいそうだね」といつたことがある。

刺戟語を与えて連想検査をした所

めぐら、お葬式に対して「かわいそう」
 軍人、きちがい、アメリカ、老人、強盗
 に対して「かわい」

貧乏に対しては「ふらふらあるく」とい
 い食物をさがして歩かねばならないかわ
 いそうだという註釈があつた。

- この子の理想は吉田首相になつて飛行機で講和会議に行くことであり、「何故吉田首相といつたか」と聞くと「日本で一番えらいから」「一番えらい人はもういないか」と聞くと「天皇陛下だけどこの次はその子供がなるんだもの」という返事でした。漠然としてはいるが、理想をもち自己を承認してもらいたい要求、相当もつてゐる。
- 物の価値については友人の絵や先生の絵の上手下手を批評しはつきり子供なりの理由をあげる。

うそのいけないことをはつきり知つてゐるが、自分の得になることについてはうそをつこうとし、幼稚園でもらつたドロップのことを母親に内緒にしておいておやつを又

もらう等という。

社會的生活

○ 独立心のめげえがみられる。

この子供のつくる話の中に出て来る主人公に頭がよくて困難を解決するすじのものがある。

製作やあそびの中で他人と違つたものをしてしばしばつくり自分だけ違つたことを得意がる。

○ 所有物に対して、この観念はよく習慣づけられてゐる。人に物をかしてあげる時は僕のを借すということ強調する。

○ 遊びの仲間も多く男子で四人から五人のグループで指図されたり、指図したりして遊び、悪口をい、けんかも盛んにする。

知的生活

○ 言語生活で語いの豊富なのは他の子供に比べて驚くばかりであるが、「僕は大きくなつたらとうだいにゆくんだ。とうだいて光をおくるとうだいでよ」大真面目にう所は聞きおぼえの子供らしさがある。

○ ホールドアップとビストル強盗のまねやビーバを吹いて交通整理の巡査に興味をもつている。

○ 数に關しては金銭に關して鋭い様で百円までの買物は円単位でお釣をまちがえないそ

うですし、友達がお弁当を忘れて、パンを先生から買つてもらつたら、「二十円だから明日お母さんにそう言つてもらつてくるんだよ」等といい聞かせたことがある。

○ 時間の観念では今日の日付けはわかるが、曜日、年等の記憶はまだ出来ない様で、過去については昨日、そのまえの日、それ以外はずつとせんの言葉であらわす。

○ 文字についてはくの字やしの字のまげる方向、途中まで線をひいておいて「僕わかんないんだ」と何度も同じものを聞きに来る調子であまり発達していません。

○ 因果關係を知り推理する力の最初の段階がみられる。

・あるお金持の人が子供におもちやを買つてやりすぎて貧乏になつたという話を作つたことがある。

・どろぼうには入られて着物を全部盗まれたらどうするかという質問に対して、其処のうちにもしか鶏を飼つていたら毛を全部ぬいて赤くそめて、ピンをさして共同募金をしてお金を集めて着物を買つ、と答えたことがある。

○ この子の知能指数は
田中ビネー個人テスト 113.5 描画テスト 112.5
愛育研究所簡易テスト 114.4 三浦

式 136.5 で三十八人のグループの中位の程度である。

次にこの子供の家庭環境をみると、父、母、姉三人、本人の六人家族で、長姉は病院入院中、あとの二人の姉は、どちらも小学生で学校の自治委員をしてゐる。

父は大学卒業の學歷で銀行員、夜は大抵おそく帰る母が養育にあたつてゐる。母は高女専攻科卒である。家は住宅地にある。

家の二人の姉の圧力が大分強い様で、本人と度々いさかいをし、姉達からは「坊やは可愛がられすぎる」といわれている様である。

生育史について細かく尋ねてみたが、大體生れてから現在まで発育のよい方らしく、又環境の激変もない、ただ母親との話し合いの中に、母はラジオや雑誌で育児についての知識をかなり念入りに仕込んでおり、又実際にそれを用いる合理性を尊ぶ人であることを感じた。

ロールシャッパ検査・お話をつくらせる。TAT・連想検査を行い自己表現をさせてこれらの窓からのぞいてみた結果は次の様である。

○ ロールシャッパ検査では七十六の反応語の中全休反応が十七個あり、運動反応とする言葉が五個みつきり共に空想性の強いこと

を示した。

○ペーブサートの人形を与えて話をさせると主人公はジブにのり、お菓子を貰つてもらい本人が要求しているものを獲得させる話の中で友達との間に秘密や意地悪で葛藤を起すがハッピーエンドで解決させる。

○TATにあらわれたものは

獲得 支配 攻撃 自律の要求がみられ、攻撃的な環境 主人公を保護援助なくさせる環境 身体的危害や危険を与えられる環境 欠乏の環境を意識していることがみられた。

尙この検査では母親の教訓がそのまゝ、主人公の言葉となり、又主人公をなぐさめる言葉となつており母親の影響が大きく出ている。TATは始めの少年用の十枚を試みに選んだのであるが、その物語りは環境の圧力に対抗していると考えられる心の動きがみられるが、うまく解決される様に結んであり、内部的な葛藤もさほど重大な問題ではないと考えられる。

○連想検査では対象に対する主観的な反応語が多くみられた。

X X X

何故食物に関する場面が多いのだろうか。

始め私は何か異常があるか又は欠乏から来る

のではないかと考えて、各生活の面を観察したが多少他の子よりすぐれている点をみつけただけで異常なもののみつからず、成育史をみ、環境をみ、子供に自己表現をさせたが裏づけるものはみつからなかつた。

まだ少し懸念を残していることは母親の合理性が、例えば乳児期の乳の与え方が時間ぎめであるとか、おやつに澱粉質のものを与えるとか等が、子供の要求を充さないものがありはしないかと思うがこれについては研究不足もあり何ともいえない。

別の面で考えられることはこの時期の子供の特徴として空想が現実とくつついている。そしてこの子が環境に対して反抗し対抗しようとするあらわれがいろいろ見られたことから、現実の場面でこの子供は相当に二人の姉から抑圧をうけておりこれに何とか対抗しようとしているが、実際にはそれが実現出来なっている。それで空想の場面で自分に身近なお菓子やその他の食物を自由に支配して抑圧を解消しているのではないだろうかという考え方である。この様な紙芝居を書き出す様になつてからそれまで口にしなかつた姉に対する悪口を先生に話す様になつた事や、むやみと人にあだなをつけて歩くことが、バツタリ止んだこと、よい子になろうと努力している

等から、これで抑圧の解消をしているのではないかと考えてみたがこれもまだ研究の余地がある。

X X X

○この子供の指導はどうしたらよいであろう。この先もつづけて観察することは勿論必要であるが、これまでの過程で考えられることは、次は次の様なことである。

○中心問題の紙芝居については、この方面の能力を伸ばす意味からも、又抑圧解消の意味からもますます奨励してゆきたいと思う
○空想力の大きい一面からいえば創始感の発達の途上にあるこの子供の創造物を、大人の眼でみずに、子供の心になつて、喜んでむかえたいと思う。

○身体的な危害や危険に対して保護援助され慰められたい要求をもっているので、適当な時にその要求に応じ、社会に対する又自分に対する信頼感を養いたいと思う。

○自律の要求もみられて来ているが、全部何でも自分ですることは出来ない。又してはならない事もある。その限界を自尊心を傷つけないで知らせてゆきたい。

○次の段階の準備として仕事を終りまでする態度をつくることも適宜指導して行きたい。
(東京学芸大学附属幼稚園教諭)